

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年12月21日(木)

みんなの居場所

今年も大変お世話になりました。お陰様で充実した毎日を過ごさせていただきました。

この時期になると一年を振り返ってみるのですが、自分だけでどうするところまでできなかった問題を、多くの人に助けられてきたことに気が付きます。有難い気持ちと感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。

明日から冬休みですが、子供達の気持ちは既にクリスマス、お正月となつてしまっています。私自身、少年時代にこの季節をワクワクしながら迎えたものです。父が製パン会社に勤めていた関係で、我が家はこの時期、大量のクリスマスケーキがありました。もちろん我が家のケーキだけでは足りません。そのケーキを母が配達しながら、最後に残ったケーキが我が家の物になりました。そのケーキを眺めながら何となく温かい気持ちになったものです。読者の皆様も、年末年始は家族の団らんと大切にしてください。新しい年の英気を奮っていただきたい。よろこばねば。

雑感

今年度も、PTA主催の強歩会が実施される。体力維持のために令和2年度4月から始めたウォーキングが、強歩会のために最近では毎日のルーティンとして1万歩、あるいは7000歩を目安に続いている。

週末は自宅をスタートポイントにしているが、ただ歩くだけではブルーニング色が濃くなり、辛みが増す。それを解消するために何か楽しいことを盛り込むことが重要だ。これまでに練習した楽しいのは単純にコースを変えるところから始まったが、それぞれのコースには興味を惹くものがある。立田山コースでは紅葉、坪井川遊水地公園コースではスイレンと魚…。最近では歩きながら楽しむのはなんでもコース上のポイントが楽しみになっている。例えば美術館。先日は熊田写真館とある団体の書道展が開催されていて頂いたのでしたが、お徳感を感ずりました。美術館が館内無料の展覧会が多々あるのはお邪魔させて頂く場所だ。あとは博物館もお勧めだ。熊本地震後に内容が一変し、より多くの展示物を観るようになったという。プラネタリウムも観て頂くのがいいと思っても「うわー!!!」と心の中で叫んでしまふ。原理は観覧しているのだが「風間なのになぜ星がさかすか感だ。

色々体験している。週末のウォーキングをしている最中だといつこは寝かされてしまっている。いつもの間に10kmほどを歩いている。更に、復路に入り、本屋さん、コピー屋さん、デパート、種々のお店に立ち寄りながら自宅に帰る。歩行距離を見ても15kmほどになっている。体感できるのは心地よい疲れだ。毎週、この様なウォーキングを繰り返していれば、今年の強歩会も踏破できるとな気がしていい。今から、今年は何人くらい挑戦するのだろうか想像している。

長洲小学校は、地域全体で何かをやり遂げるためのエネルギーが高いと思う。そういう意味で、私は長洲小学校に着任して直後から、「この地域のために自分は何ができるのか、何をすべきかを考えてきた。なぜなら、学校はそれができる拠点だと思うからだ。地域全体の活力を上げたいからだ。」と、地域PTAの壁を打ち壊して、今後何ができるかを考えていきたい。

シリーズ「自分を語る」#144

平成28年度はサラッとお話ししましたが、色々なことが沢山あったので、話はないことが多くてですね。それはまた今度…。
このお話、平成29年度に入りまして、1年間をよむとよくわかっていきました。乗の越えた松澤田、このままでいいけないことは十分分かっていました。事務仕事などで出来て当然ですから、私が平成28年度にやっていたことは生半端とはいえないでした。そこで、教職として学校教員目標の達成のために何ができるかを考える必要があったと思い、2月未満からハイテクを練習してまいりました。新しいことを何かやれるにしても、私の場合、これまで経験してきたことをベースに考えなければ中々ハイテクが浮かんできません。私が教諭時代、主幹教諭時代にやっていたこと、周りの人たちはよく「澤田と言えはナイトハイテク」と答えました。私は学校拍子時代、学校経営の1つのツールとしてナイトハイテクを実施していましたが、これが実現できたのは子供達や保護者の皆様との信頼関係がベースにある、実施するための「解決しなければならぬ課題」に対して、加点法を考える素地があったからです。成功させるために何が必要かというポイントに基づいて動く素地があり、出来た理由を考えるような集約はなかったのです。だから、毎年のように実施するようになったのです。

「ナイトハイテク」を教頭が拍子代として実施するようになったのはなかなかなせぬ。子供達との信頼関係は、ある程度はできていると拍子の先生方が子供達と接する時間にはなりました。ましては保護者の皆様と接する時間は更に少なくなりました。PTA執行部の皆さんはハイテクスタンスに連続を取りますが、それでよい時間です。そんな中、保護者の皆様や子供達の中に「教頭先生についてほしいという」声や疑問が持ち上がっています。そのような状況では、いきなり「ナイトハイテクをやります。」と教頭が言っても、誰もついてきません。そこで、平成29年度に入り、始めたのが教頭便りの執筆です。まずは、私澤田のことを知ってもらおうと書き執筆をスタートしました。学校拍子時代から、学校経営の大きな武器になった捉え、力を入れてきたこと、元来、文章を書くことに苦痛はありませんでしたので、気楽な感じで執筆を開始したことを思い出します。第1号を出したのは平成29年の4月の終わりのことだと思います。何となく思いついた文章だったので、反省、第2号からシリーズ「自分を語る」を書き始めました。今でも追加修正を加えながら執筆しています。自分の事を素直に話しているつもりです。私自身を知ってもらおうと書いた話です。おもしろくありません。でもおもしろく書いています。別に、読者の皆様からの返信欄も設けました。感想、意見、指摘、自分の事について、多くの意見を頂くといいなと思っていました。不思議なもので、他の記事よりも「自分を語る」を楽しく感じていらついています。多くの方が読んでくださるから、早く出してほしいなという声も聞かれました。等しい意見を頂く事もありますが、クッキーが病気のくだりが最も人気があります。この校長便りの、当時の作文がベースになっています。(ついで)